

文化財保護を私たちの手で

下町文化

第 182 号

平成 9 年 5 月 15 日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課



委嘱を受けた協力員

専門的な仕事だけではなく、文化財の所在さえ知っていれば、だれにでもできるといえます。たとえば皆さんが家の近くにある文化財に「こわれていないか」などと日頃からちよつと気を配ることも、保護のひとつのあり方ではないでしょうか。「地域に根ざした文化財保護」を合言葉に、協力員は今年も区内各所を歩き回ります。

協力員制度が啓定して、はや5年。教育委員会では、4月18日に新たに20名の協力員を委嘱しました。昨年委嘱を受けた19名の方ともども、新任のみなさんにはこれから2年間にわたって文化財の保護・普及にご協力いただくことになります。

文化財保護推進協力員

新たに20名を委嘱

平成八・九年度委嘱者

平成九・十年度委嘱者

岡本ヨシエ 塩浜	浅野	清天 島
折井 一(東陽)	川村昭治郎 北砂	
河合 三郎 清澄	北川 房枝 北砂	
北村儀一郎(東陽)	齊藤 恵子 北砂	
鈴木 英子(豊洲)	佐藤 幸子 亀戸	
高橋 栄子(辰巳)	菱木 宏 大島	
田中 嘉明(扇橋)	森田 克己 北砂	
福井 穂積 平野	山田 重治 大島	
福原喜美子(辰巳)	吉藤 賀好 北砂	
秋元香苗恵(大島)		
池田 英子(南砂)	土屋 正躬 枝川	
石見羽津映(海辺)	戸田 政徳 東砂	
岩松 精(高橋)	富永 文昭(南砂)	
植村 學(東陽)	藤田 登 東陽	
小澤 健一(北砂)	古郡 哲郎(渋谷区)	
加藤 朝子(亀戸)	松本 敏子(猿江)	
小島 隆清(澄)	三神 輝男(古石場)	
齊藤 欣弥(東陽)	宮本 和子(東陽)	
田村 誠一(木場)	矢部 和夫(白河)	
津久井栄次郎(南砂)	山科 義郎(白河)	

社会と地域に根ざした

文化財保護活動へ向けて

文化を伝える

南砂 池田 英子

区が発行した「想いDE写真館」を開くと昭和三十年頃の町の様子が写っています。貧しかった時代ですが、広い空と静かな穏やかな営みが感じられ今日の喧騒からは信じられない情景です。同じ場所が百年前の明治には、二百年前の江戸では、どのような暮らしがあったのでしょうか。

先人達が大切に守り続けた信仰の場や、楽しみに興じた芸能、生活の隅々に工夫し受け継がれた民具など、今もきちんと受け継ぎ守り続けている方達が区内に大勢いることを知りました。

隅田川の東岸、城東のこの地は数々の文化人が逗留し、風光明媚な水辺に壮大な屋敷が点在する、江戸からの行楽に舟で訪れる人々もあつたという。今またウォーターフロントとか、高層マンションが林立し、新しい顔に変わりつつあります。

先人達が残した伝統の重みと生活

の知恵を広く伝えていく為に、これらから皆さんと協力していきたいと思っています。



角乗・力持公開の会場設営

現況確認調査で

感じたこと

東陽 植村 學

今回三度目の協力員委嘱を受けました。過去四年間の経験をベースに新しい二年間を頑張りたいと思います。協力員の役割は、文化財を知り、それらの保護の重要性を知り、そしてその成果を周囲の人たちにも広げていくことと認識しています。

以下は、現況確認調査という協力員の活動のなかで、文化財の保護について感じたことです。

屋外の小さな石造の調査対象物に相對するとき、それが砂塵に埋もれて放置されているのを見ると、その

文化財が必ずしも十分な保護のもとに置かれていないという気持ちになります。保護とは、辞書によれば、かばい、まもること、とあります。

先人たちからの大切な遺産を、やさしくまもり、そして胸を張って後世へバトンタッチしたいものです。そのために何をすればよいかを真剣に考え提案していくことなども協力員の役割の一部だともいえます。

郷土史の勉強の場

木場 田村 誠一

私は、仕事の関係で数回各地を転勤しているが、各赴任先でその地方の歴史、風土、文化を知り、その地の方々とネットワークを持つことに努力してきた。

転勤により江東区に住んで六年、持前の好奇心から、古文書、初級、中級の講習を受講、協力員として二期目に入った。

協力員としての私は、文化財保護活動に協力しているなどと大袈裟な考えは毛頭なく、与えられたテーマを調べるなかで、様々な疑問や問題を見つけたし、それを解明してゆくプロセスは、郷土史勉強に最高の場である。

そして協力員活動は、当区に縁のなかった私にとって、すばらしき先輩、仲間とのネットワークの場でもある。

協力員活動に際して

白河 山科 義郎

一年間の空白期間をおいて、今回新たな気持ちで活動に取り組みたいと思います。

昨年初夏、スペイン・ポルトガルの田舎を中心に、約二カ月間旅行しましたが、僅か人口二三百人の小さな過疎の村でも、昔からの祭りや古い建物が住民達の手で立派に保存されているのを目の当たりにしました。現在の日本とは比較にならないくらい、貧しさが目に付く農村で、保存の為の金銭的な余裕など無い所です。住民達の有形・無形の文化財に対する理解と、これを守ろうとする強い意志がこの様な良い結果を生み出していると、つくづく感動させられました。

この感動を、これからの協力員活動の中に生かし、少しでも多くの人々に文化財を守る事の大切さを理解していただく為のお手伝いが出来ればと考えています。

登録文化財

前回にひきつづき、新しく登録された文化財をご紹介します。

【史跡】

櫛御植付場跡

新大橋1-2・3

御用石灰置場並会所跡

新大橋1、常盤1-6



嘉永5年(1852)発行の「本所深川絵図」をみると、新大橋の橋台地に接するところに、「灰会所」という場所があります。

そこで、江戸時代末頃に幕府が編さんした地誌『御府内備考』(文政12年、1829)をめくると、111巻目に「石置場蹟 附櫛樹植付場石灰置場」という記事が見つかります。

読んでいくと、文化9年(1812)に、蛸殻灰竈株持ちの芝金杉通3丁目(港区)に住む松屋佐助ら10名が、櫛御植付場のうち150坪4合を石灰置場として使用する許可申請を出したことがわかります。彼らのなかには深川猿江代地町(三好4丁目)に住む山形屋八左衛門とい

う人もいました。同年8月になって、毎年15両を地代として代官に納めることとして使用が許可され、以降当地は御用石灰置場と称されます。これで「灰会所」の「灰」は石灰であることがわかります。

蛸の肉は食用になったでしょうが、残った殻は焼いてくだし、石灰としてしつこいの原料や畑の肥料、あるいは養鶏の飼料にしました。とくに肥料としては、干鰯より値段が安く、よく作物が育つことから、さかんに使われましたが、弊害があるためにたびたび使用禁止令が出されていま

す。

ここでは御用石灰とあるので、しつこいの原料に用いることを目的としたと考えられます。

西尾藩藩校典学館跡

深川1-6

登録解除

【無形文化財(工芸技術)】

組紐 森下1-9-2 田中森蔵

竹工(釣竿)

大島2-12-5 松枝良雄

(解除理由) 死亡のため

木工(版木彫刻)

亀戸3-38-20 久我周二

(解除理由) 区外転出のため

追加指定

有形文化財(彫刻)

名称(追加前) 木造阿弥陀如来立像

(追加後) 木造阿弥陀如来立像

附 体内納入品 4点

所有者 因速寺(東砂1-4-10)

因速寺の本尊・木造阿弥陀如来立像の体内から、昨年度の解体修理時に納入品が発見されました。仏舎利一包、修理願文一巻、浄土三部経一巻、結縁交名一通の4点です。

今回、この4点を附として追加指定しました。

仏舎利の包紙には慶長2年(1597)の修理の記述がありました。

修理願文と浄土三部経は、延宝2年(1674)の修理時に納められたものです。結縁交名は延宝2年の修理願文の発願者の追加と思われます。

体内納入品は、本像が慶長2年と延宝2年に修理を受けていること、

本尊として安置されていた時期および当寺が深川黒江町代地にあった時期が延宝2年までさかのぼることを示しており、



江東区にとってたいへん貴重な史料です。

指定文化財紹介

有形文化財(絵画)

名称 紙本淡彩道祖神祭図

歌川広重筆 一幅

所有者 香取神社(亀戸3-57-22)



道祖神祭図は、図を描いた本紙を掛軸に表装したものです。本紙は縦33・6cm、横40・6cm。表装は縦158・0cm、横47・0cmです。

香取神社の道祖神祭は、毎年正月14日、氏子の子供たちが宝船を担ぎ、亀戸から両国の辺りまで練り歩いたもので、享保頃から明治初期まで続きました。本図は人物や宝船を墨で描き、朱、青等で淡彩を施しています。作者は浮世絵師・歌川広重で、嘉永5年(1852)以降、広重の熟年期に描かれた作品とみられます。本図は、江戸時代の香取神社の古い祭礼の様子をよく伝え、作者が著名な広重であること、また戦災を免れて区内に伝えられたことなどから、貴重な作品といえます。

おしらせ

第34回文化財講習会

深川寺町の歴史

文化財係では毎年地区ごとに歴史と文化を知っていただくための「地区別講習会」を開催しています。



今回は明暦の大火を契機に形成された「深川寺町」にスポットを当てます。今まで知らなかった新しい深川の姿が見えてくるはずです。聞いて、歩いて、見て、深川寺町の歴史と文化を探りましょう。

〔日程・内容〕

- 6/11(水) 深川寺町の歴史
- 6/18(水) 深川寺町の文化財
- 6/21(土) 深川寺町のむかしさがし

松平築翁公墓前祭のご案内

幕府老中として寛政の改革を实
行した白河藩主松平定信の墓前祭
(168回忌)が行われます。墓は
国指定の史跡となっており、当日
公開されます。なお法要後に
頼惟勤氏(お茶の水女子大学名誉

6/25(水) 深川寺町ゆかりの人物
時間 午後6時30分〜8時30分
21日は午後1時〜4時30分

会場 深川老人福祉センター
(平野1-2-3)

講師 辻康信(元東陽小学校校長)
文化財専門員ほか

対象 区内在住・在勤の方

定員 50名(多数の場合は抽選)

申込方法 往復ハガキに住所・氏名・
年齢・電話番号を記入し、5月
30日迄にお申込みください。

◇申込先・問合せ

〒135 江東区東陽4-11-28

教育委員会生涯学習課文化財係まで

☎3647-9111(内)3362

江東史談会例会

日時 5月27日(火) 午後6時

会場 深川老人福祉センター

参加 自由、会費1000円

連絡先 細田隆善(3641)5780

芭蕉記念館から

映画会

日時 5月24日(土) 午後1時30分

内容 奥の細道ほか

定員 50名(入場無料)

俳句会

日時 5月27日(火) 午後1時15分

対象 区内在住・在勤の方

定員 50名 無料

ジュニア俳句教室

日時 6月14日(土) 午前9時20分

対象 区内在住の小中学生

定員 30名(先着順) 無料

申込 いずれも前日までに電話で

文学講習会

(A)コース 俳句入門

期間 6月13日〜毎週金曜(5回)

時間 午前10時〜正午

講師 江東区俳句連盟会長 細田豊明

(B)コース おくのはそ道の探究

期間 6月13日〜毎週金曜(5回)

時間 午後6時30分〜8時

講師 都留文科大教授 楠元六男

(A・B)両コースとも

対象 区内在住・在勤の方

定員 (A)30名 (B)50名

申込 (多数の場合は抽選)
往復はがきに住所・氏名・年

年齢・電話番号と受講希望コース
を書いて芭蕉記念館へ(両コ
ス希望の場合は別々のはがきで)

5月26日(月)必着

◇〒135 江東区常盤1-6-3

芭蕉記念館

☎(3631)1448

休館・展示室休室のお知らせ

芭蕉記念館は、6月2日(月)から6

月6日(金)まで展示替えのため展示室

と図書室が休室。そのうち2日・3

日は休館です。新展示は6月7日(土)

からです。

工匠館から

伝統の技 実演公開

森下文化センター内で行う、職人

さんの実演日程は次のとおりです。

6月1日 紋章(刺繍) 天野 一政

6月15日 木彫 渡辺美壽雄

*時間はいずれも午後1時〜3時

計報

江東区登録無形文化財(工芸
技術・刺繍)保持者山崎喜作氏
(95歳、富岡1-26-20)は、
去る4月17日に逝去されました。
謹んで追悼の意を表します。